

授業案② 24時間営業のカラオケ店の深夜営業のルール

1 対象

中学生

2 獲得目標

- ・ ルールを決める際には、様々な立場の人の利害を考慮する必要があることを知る。
- ・ 様々な利害を調整する際の議論の方法について学ぶ。
- ・ 考慮した利益、考慮しなかった利益について、自分なりの意見を持ってルールを定めることができる。

3 本授業案の意義

本授業は弁護士からの導入講義のあと班で話し合い、カラオケ店を中心とした地域の問題について、それぞれ別の立場となり、地域のルールを決めるというものである。

それぞれが別の立場から議論をするという点が特徴的であり、一定の結論を出すために互いに譲歩等をしながら地域におけるより良いルールを定めていくことが重要になる。

本授業は一度多数決でルールを決めるものの、議論がうまくできない状況において多数決でルールを決めることにより、全体の利益を考慮できていないという結論を想定している。その後、再度議論をして全会一致でルールを定めるという流れを経ることで、ルールの成立過程にも着目し、より良いルールを考えるという過程が本授業案のポイントである。

4 授業の流れ

第1限

段階 時間	○教師の主な発問・指示 ◎学習内容	⇒生徒の反応 指導のポイント
導入 15分	◎ルールがどのようにして作られていくのかについて ○ルールの決め方について、誰か代表となる一人を決めて、その人にルールの内容を決めてもらう方法がある。この方法だとルールを決める人は比較的内容を自由に決めることができるし、その人以外の人には、ルール作りの負担を負わなくていいので楽をすることができる。もっとも、一人の意見が色濃く反映されるから、みんなの希望に沿うとは限らない。	まずは、友達となにか決め事する際にどのように決めるか等、生徒に問いかけて、関係を構築する。 一方的ではなく、なるべく双方向な授業となるようにする。

	○みんなで話し合いをして決める方法がある。みんなが参加する方法だと、みんなの意見をルールに取り込むことができる。しかしながら、意見同士の調整することは大変な作業となる。 ◎今回の授業の説明 事案の概要の説明をする。 登場人物の紹介をする。 1 最初のアクティビティーは、地域のルールについて、多数決でルールを決めるものである。 2 多数決は全体の過半数の賛成によって成立する。 棄権は禁止 3 具体的なルールは、各人が随時提出可能で、ルールの案が提出され次第、投票に入る。 4 7人1班を作る 5 配役は学校側で事前に決めておいてもらう。 6 担当の配役の要望事項の熟読を指示する。 (他の配役の要望事項は知らない。)	ルールの説明は、黒板等書いても良い。 最初のアクティビティーは、役に入れるかが大きなポイントなので、しっかり生徒を盛り上げて、役の通りに動けるようにする。 時間が余れば、再度状況や登場人物の概要を説明する。
展開1 25分	机の配置を変える。 ○大学生役となった人が司会進行を行う。 議論と議題の提出、採決を複数回行う。 議決がまとまったら、メモをする。 ルールが決められなかった場合も、その結果を記録する。 ①営業時間 ②防音設備 ③酒類の提供（フリードリンクの是非）	班を担当する弁護士はそれぞれの役に入り込めるように、生徒を盛り上げる。 大学生役の切り出し方の一案として、 喫茶店マスター役と中学校PTA会長役から苦情意見を出してもらう →カラオケ店店主役から現状の営業方法について説明してもらう →サラリーマン役、周辺在住高校生役、コンビニ店オーナー役にカラオケ店の評価を述べてもらう →大学生役が、「このカラオケ店の良さを残しつつ、周辺住民の理解を得ることができるような、ルールを作りたいと思います。」という流れが考えられる。 適宜見回り、生徒の議論を促す。
10分	班ごとに発表 この時点では、後半につなげるために詳細な講評とは行わず、各班の意見を比較する程度にとどめる。	前半部分は議論にならない方向が良い。 結論が出ない。極端に誰かに有利な結論が出ることも良い。 後半部分につなげる。

第2限

導入 5分	○全登場人物の要望を把握する ○町内会の評議員の立場になり、よりよい町を作るための中立的な視点で本件においてよりよいルールを検討する。今回は多数決ではなく、全会一致でこれを決める。	ルールが変わるので、しっかり理解してもらう。
展開 25分	班で議論の開始 それぞれの班の結論を出す。 司会者は最初に決める（速やかに決まらない場合には、大学生役だった人に司会者を継続してもらう）。全会一致であるので、意見が違う部分については、他の人を説得したり、意見を変えたり、より柔軟な対応が求められるとのアドバイスもありうる。	適宜班を見回り、議論がスムーズに言っているか見回る。
発表 15分	それぞれの班に、作ったルールについて発表してもらう。 当事者として多数決で決めたルールと、利害関係のない立場から決めたルールを比べて、どちらがよいと思うかも発表してもらう。 （そもそもルールができたかも含めて、発表してもらう。）	発表について、教師・弁護士から質疑応答もあるとよい。
まとめ 5分	弁護士からまとめ ・ ルールの成立過程 ・ どのようにルールは作るべきか ・ ルールの作成のあり方とは ・ 各々が自分の利害のみを追求することの是非等	そもそもルールとはなにかという問いもあるとよい。 本授業は、ルールの成立過程を重視したものであるが、適切な手続きを経たうえで成立したルールであっても、少数者の人権をみだりに制約することは許されないことなど結論の正当性にも触れたい。答えがあるわけではないが、あまりに不合理な結論の場合は司法等により是正される可能性があることにも触れたい。

アクティビティー 1

～私の好きなようにさせてくれ～

A市B町において、昨年カラオケ店がオープンした。カラオケ店は人気を博し、連日多くの客でにぎわう一方で、周辺住民等からは苦情も出ていた。

そこで、まず、周辺の大学生が発案者となり、利害関係者たちが話し合いを行い、多数決でルールを決めることとなった。

なお、そこで決まったルールについては、皆が従うことで合意した。

【登場人物】

1 カラオケ店の店主

最新の機械を入れ、音の大きさが好評。学割制度もあるので中高生も利用している。また、客を集めるためにフリードリンク制で酒も自由に飲めるシステムを取り入れるなどのアイディアを持っている。

2 サラリーマン

カラオケ店の常連客。A駅周辺にはここしかカラオケ店がなく、仕事帰りに通うことも多いため、深夜営業も求めている。

3 周辺在住高校生

カラオケ大好きな高校生。アルバイトの帰り道によく利用し、友達と盛り上がると夜10時まで歌っていることがある。カラオケ店は家から近くて便利。迫力のサウンドも大きな魅力。

4 喫茶店のマスター

自宅兼店舗として、カラオケ店のとなりに住んでいる。深夜まで鳴り響く騒音に悩まされている。

5 コンビニ店のオーナー

カラオケ店の客がよく利用するので売上が大幅に増加している。しかし、酒に酔った客が店の前で騒いだり看板を壊したりするなどの被害を受けている。

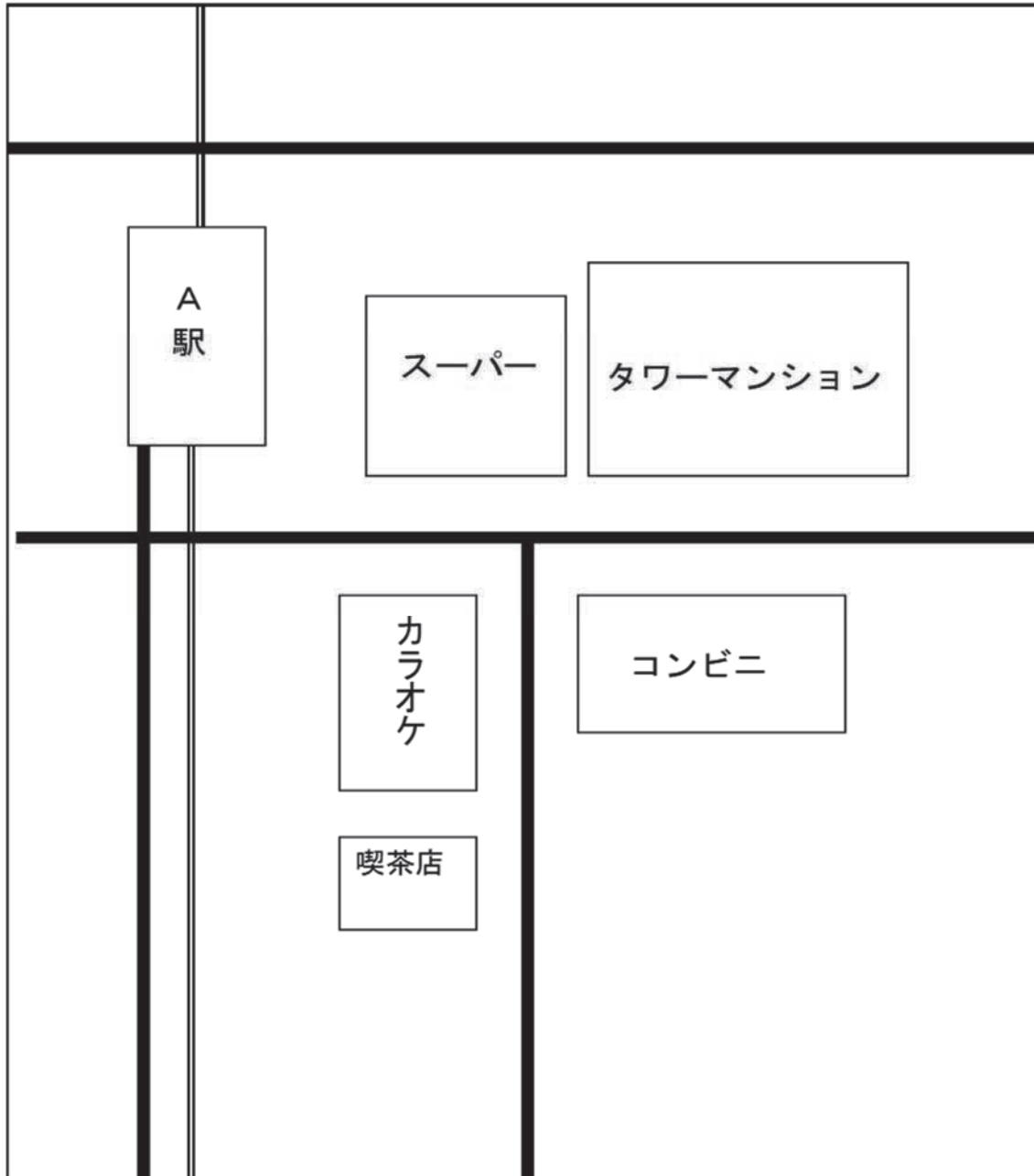
6 中学校PTA会長

中学校でもカラオケボックスは問題になっている。夜遅くまで中学生が利用しているとのこととで困っている。自分の娘についても心配。

7 大学生

カラオケボックスについての皆の意見を集約してルールを作ることを提唱している。

地



プロフィール（1 カラオケ店の店主について）

カラオケ店は、大手カラオケ店の直営店として、地域に根差すことを目標に営業中。
直営店のため、売上が少ないと本社から怒られる。売上を伸ばすためにさまざまなサービスを

考え実行している。

- 大音量の迫力あるカラオケ。
- 24時間営業にしていつでも誰でも利用できる。
- 学生割引を導入して中高生の利用を増やす。
- フリードリンク制（酒を含む）で飲み物は飲み放題。

実のところ近所から苦情を受けて困っているが、今のサービスを続けないと売上が落ちるのではないかと心配している。

そのため、カラオケ店店主の要望としては、

- 1 大音量のカラオケの維持
- 2 24時間営業の継続
- 3 学生割引の継続とフリードリンク制の維持（条件付きでも可）

である。

プロフィール（2 サラリーマンについて）

A 駅周辺に住み、カラオケ店をよく利用する社会人。仕事はストレスが多く、家族ともうまくいっていない。

- 仕事が忙しいのでカラオケに行くのは夜の10時過ぎが多い。
- とにかく大きな音を出さないと気がすまない。

会社のカラオケ大会で優勝して以来、自分の声に自信を持ち、一層カラオケが好きになる。友だちは少ないので、一人で歌うことが多い。会社帰りにA 駅を降りてカラオケに寄り、大声で歌って、酒を飲み、家に帰るという生活を続けている。

そのため、サラリーマンの要望は

- 1 大音量で歌える環境
- 2 早くとも深夜2時までの営業
- 3 酒を含むフリードリンク制の維持

である。

プロフィール（3 周辺在住高校生について）

A 駅周辺の高校に通い、A 駅周辺に住む高校生（17歳）。とにかく楽しい高校生活を送りたいと考えている。友達と誘いあってカラオケに行く。カラオケ店は高校からも近く便利。

○アルバイトが終わった後、カラオケに行くと帰りが午後10時を過ぎることがある。

○友だちと大きな音を出して歌うのが何よりの快感。

○このカラオケ店は学割があって他のカラオケ店よりもいい。

そのため、周辺在住高校生の要望としては、

- 1 夜10時までの営業
- 2 大声で歌える環境の維持
- 3 学割の維持

である。

プロフィール（4 喫茶店のマスターについて）

カラオケ店の隣の住居兼店舗で喫茶店を営む。20年前、駅に近いわりに静かで環境がよいと開業。妻と大学生の娘と3人で暮らしている。毎日夜9時には寝ている。

○夜中にカラオケ店から大きな音がもれてくるので睡眠不足になる。

○酔っぱらいが外で騒ぐので迷惑している。

カラオケ店ができてからは毎日騒音に悩まされ、たいへん怒っている。ちなみに、彼はカラオケ店が嫌いで、一度も行ったことがない。

そのため、喫茶店のマスターの要望としては、

- 1 カラオケ店の営業を夜9時までにする
- 2 カラオケ店からの騒音を止める
- 3 カラオケ店に深夜の酒類の提供をやめさせる

である。

プロフィール（5 コンビニ店のオーナーについて）

カラオケ店の向かいにあるコンビニ店のオーナー。本社の指示で24時間営業にしているが、住宅地の中心にあるので深夜の売上は全く伸びなかった。なお、酒は扱っていない。

○カラオケ店ができたことによって、カラオケ店の客が自分の店を利用し、昼間はもちろん、深夜の売上が大幅に伸びる。

○カラオケ店帰りの酔っぱらった客が店員にからんだり、店の看板を壊したりしたことがある。

○カラオケ店の騒音についても、コンビニ店の従業員から苦情が来ている。

カラオケボックスができたことで売上が伸びたのはたいへん嬉しいことだったが、同時に迷惑

しているところもある。

そのため、コンビニ店の要望は

- 1 カラオケ店の深夜営業の維持
- 2 カラオケ店の酒類の提供をやめさせること
- 3 カラオケ店からの騒音を止めること

である。

プロフィール（6 中学校PTA会長について）

中学3年の女の子と中学1年の男の子の母。PTA会長になってからは生徒の親からたびたび相談を持ちかけられる。カラオケ店を問題だと言っている親も多い。PTAで問題になっている（心配している）のは以下の点である。

○夜遅くまでカラオケで遊んでいる中学生がいる（中学校でも問題になっている）。

○塾帰りの中学生が、カラオケ店から出てきた酔っぱらいにからまれるなどの情報もあり、地域の雰囲気が悪くなると言われている。

自分の子どもについても、受験勉強をしてほしいと思っているが、友だちとカラオケに行くようになって困っている。また、自分の子どもが酔っぱらいにからまれないかと夜の外出が心配である。

そのため、中学校PTA会長の要望は

- 1 カラオケ店の深夜営業の廃止
- 2 カラオケ店の酒類の提供をやめさせること
- 3 中高生がカラオケ店を利用しづらくすること

である。

プロフィール（7 大学生について）

A市内の大学に通学する20歳の大学生。

選挙権の行使年齢が18歳に引き下げられたことをきっかけに政治に興味を持ち、大学では政治学を専攻している。

大学の論文のテーマとして、ルール作りと民主主義について考えており、フィールドワークとして、本件の仲裁に乗り出す。

本件の話し合いの議長であり、論文のネタとして、ルール作りを成功させたいと考えている。

そのため、大学生の要望は、

- 1 ルールができること
 - 2 できたルールは各人の要望を必ず最低1つは満たしていること
 - 3 できたルールが各人の要望をできれば2つ以上満たしていること
- である。